

令和7年度通学路安全対策推進モデル地域研究事業 砥部町の取組

砥部町教育委員会 学校教育課
砥部町立砥部小学校

1 事業概要

通勤や通学時間帯、公共バスや自動車、自転車、通学児童生徒など非常に多くの移動があり、多くの危険が存在している砥部小学校区において、本モデル事業により砥部小学校を拠点校として指定し、課題解決を図ることを目的とする。

課題解決を図る取組として、拠点校では、安全教育の充実を図りながら、児童、保護者、地域住民、警察、行政等による様々な視点による通学路危険箇所の調査を実施し、必要な安全対策の抽出、改善策を講じるとともに、現存の見守り活動や、地域の協力（まもる君の家やわんパト隊など）を得ながら、学校だけでの対策にとどまらないよう、また教職員の負担を軽減しつつ、継続的な取組となるよう、より実態に合った対応を検討・実施する。

砥部町教育委員会は、実践委員会を開催し、通学路安全対策に関する協議及び情報共有の場を設け、拠点校の進捗を管理する。

また、砥部町通学路安全推進協議会において、町内の公立の全ての学校のほか、警察、道路管理者、地域、町教育委員会等の関係機関参加のもと、合同点検を実施し、町内全体の通学路における児童生徒の安全確保に向けた実効的な取組を進めていく。

本事業の最後には、本取組の成果を報告し、砥部町内全域のさらなる安全教育の充実を進める。

2 拠点校の取組

(1) 交通安全教室（登下校交通教室：1年生）4月15日

松山南交通安全協会、交通指導員、町スクールガードリーダーを講師として、新1年生を対象に登下校交通安全教室を実施した。身近な日常生活における交通ルールなど、安全に行動できる能力を養った。



(2) 交通安全教室（自転車教室：3年生）5月7日

松山南交通安全協会、交通指導員を講師として招き、3年生児童42名参加のもと、自転車交通安全教室を実施した。

教室では、自転車の乗り方のほか、日常生活における交通場面の危険性など指導を受けた。

(3) 児童生徒をまもり育てる日（わんパト隊による見守り） 7月4日

「児童生徒をまもり育てる日」の取組として、松山南警察署協力のもと、地域の「わんパト隊」による、朝の集団登校時の街頭指導を実施した。「わんパト隊は」、飼い犬の散歩の際に子どもたちの登下校などを見守ってもらう取組であり、地域の見守りの強化を図った。



3 町教育委員会の取組

(1) 実践委員会の設置

【構成】 学校安全アドバイザー（愛媛大学）、町スクールガードリーダー、県教育委員会保健体育課、中予教育事務所地域教育推進課、国土交通省松山河川国道事務所、中予地方局建設部道路第二課、松山南警察署、砥部町、砥部町教育委員会、砥部小学校、砥部小PTA

7月7日 第1回実践委員会

取組の方向性や実施内容、連携内容の確認

※委員から「事業が一過性のものにならないよう、対策をあわせて考える必要がある。」との意見あり。

12月2日 第2回実践委員会 事業の成果報告

(2) 砥部町通学路安全推進会議

7月～9月 通学路合同点検

【参加機関】 松山南警察署、道路管理者(町、県)、交通安全協会、町スクールガードリーダーなど

砥部町内全域の通学路から抽出された 14 の危険箇所を3日間に渡って合同点検を実施



第1回推進協議会 10月1日

合同点検において抽出された危険箇所の対策方法について、推進協議会で協議した。

【主な対策】

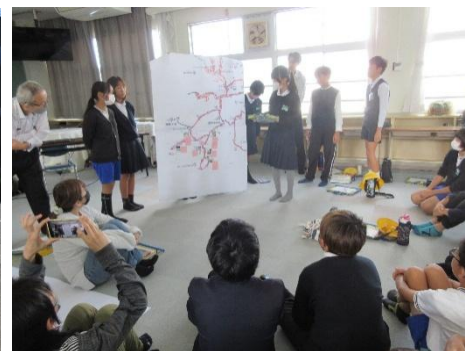
- 白線・横断歩道等の引き直し
- 交通規制・取締りの強化
- 「減速・通学路」等注意喚起表示の設置
- 民地からの支障木の伐採
- カーブミラーの設置 など



(3) 砥部町連絡協議会（砥部小学校）10月27日

県アドバイザー派遣事業を活用し、拠点校（砥部小学校）において、砥部町連絡協議会を実施した。協議会では、学校安全アドバイザーである愛媛大学教育学部准教授井上氏を講師として招き、6年生を対象に、通学路の安全対策の講義と、通学路の安全点検のフィールドワークを実施した。

授業では、6年生の保護者、警察、道路管理者（町）、町スクールガードリーダーなど関係者も授業に参加し、指導役となることで、より実践的な内容となったほか、児童も通学路の安全対策に必要な構成員であることの自覚をさせることもでき、より主体的かつ実践的な取り組みとなった。

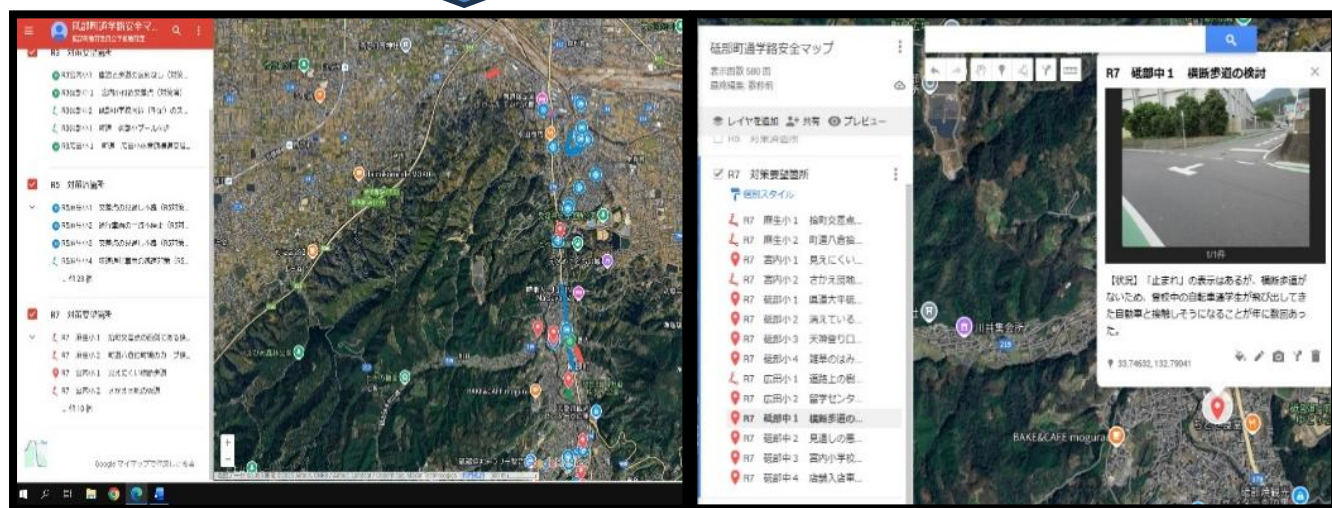


(4) デジタルマップ（通学路安全対策マップ）の作成

7月に開催された「第1回実践委員会」において指摘された「事業が一過性のものにならないような対策」として、デジタルマップの作成に着手した。

これまでエクセルによる「通学路の安全対策箇所一覧」（次項上部写真）により管理してきたが、関係機関内において場所の特定、共有が上手く図れていない現状があったため、本事業を契機に、新たに通学路のデジタルマップを作成した。

なお、デジタルマップは、グーグルの「マイマップ」の機能により作成し、関係機関内のみに公開している。

[illegible]

(5) まもる君の家の更新

まもるくんの家



えひめ

松山南警察署 110番 または 958-0110
松山南地区防犯協会・碓部町防犯協会
碓部町教育委員会・碓部町PTA連絡協議会
碓部町青少年育成センター

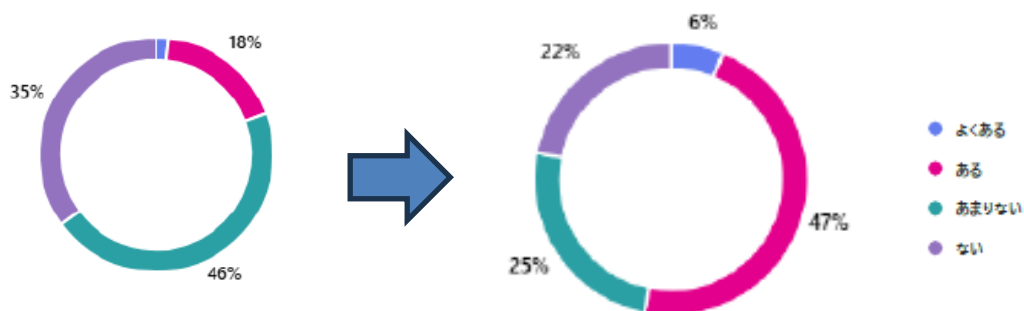
- 4 -

4 取組の成果

本事業において、拠点校での取組の成果を確認するため、6年生を対象に、事業実施前の7月と、事業実施後の12月にアンケートを実施した。

※「左：事業実施前」「右：事業実施後」

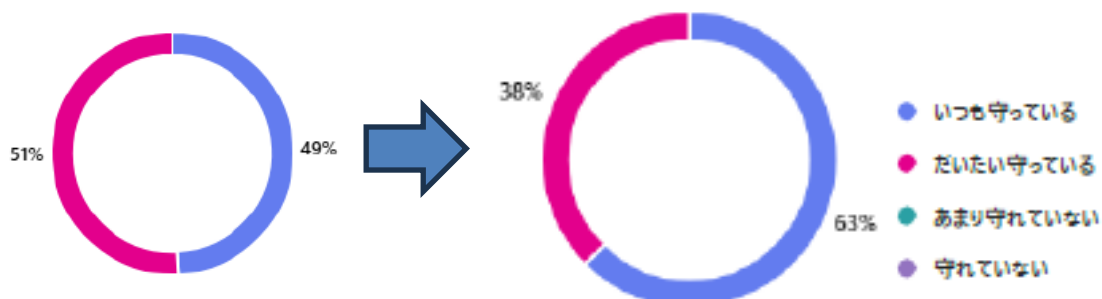
ア. 通学路を歩いていて、危ないと感じることはありますか？



「よくある」「ある」の回答が19%から53%に増加した。

児童が普段何気なく歩いている通学路にどのような危険があるか、また、児童が気付いた危険箇所が、通学路の安全対策にとって重要であることを指導したことにより、数値が増加したと考えられる。

イ. あなたは通学中、交通ルール（歩道内を1列で歩いている、左右を確認するなど）を守れていますか？



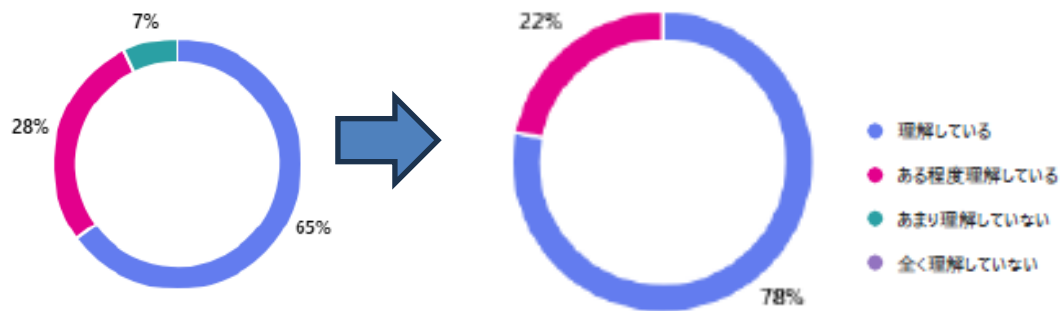
「いつも守っている」の回答が49%から63%に増加した。
交通安全への意識の高まりがみられた。

ウ. 登下校時に、先生や地域の人から見守られていると感じますか？



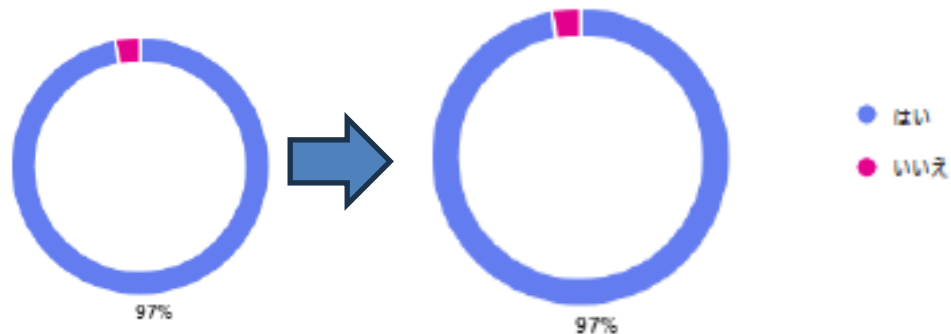
「いつも感じる」「ときどき感じる」の回答が95%から97%に増加した。

エ. 通学路にどのような危険があり、気を付けなければならないか、自分で理解していますか？



「理解している」「ある程度理解している」の回答が実施後には 100%となり、児童の交通安全への理解が高まった。

オ. 自分が住んでいる地域は好きですか？



実施後も地域に対する愛着を持つ児童が多い。今後も地域の愛着形成に繋がるよう、地域住民や関係機関など多くの大人の見守りや協力により、地域の安全が図られていることを今後も継続して指導していきたい。

カ. モデル事業を実施してみたの感想（6年生）

- ・地域の人たちなど多くの人から見守られていることが分かった。
- ・自分の歩いている通学路に危険がたくさんあることを改めて実感した。
- ・知らない危険が他にもあると改めて知れた。
- ・地域の安全が増す良い事業だったと思う。

5 成果と課題

(1) 成果

- 成果指標を設定した項目については、いずれも目標を達成することができた。
- 通学路安全対策マップの作成・フィールドワークの実施により、児童の主体性を向上させるとともに、行政や地域との共同実施によって、安全教育の充実を図ることができた。
- 通学路合同点検において抽出した要対策箇所について、関係機関による対応等、全ての箇所の対策（対策方針の決定）が完了した。

- 警察や交通安全協会、スクールガードリーダー等の協力により、防犯・交通安全教育の強化を図ることができた。

(2) 課題と今後の取組

拠点校を中心にモデル事業に取り組んできたが、もともと地縁関係が強い地域ということもあり、地域や関係機関からの協力を得ながら、充実した事業を実施することができた。

また、アンケート調査において児童の地域への愛着形成は高いことが分かり、今後もこの地域特性を生かしつつ、地域の連携を図りながら充実した取組となるように進めていきたい。

通学路の安全対策は大人だけの視点でなく、実際に毎日通学している児童の視点が非常に重要であり、大人である関係機関が児童の意見を共有することでより実態に合った安全対策につながるということが分かった。

今後、今回のモデル事業で実施した通学路の安全対策事業（学校におけるフィールドワークや通学路安全対策マップ作成等）を、「砥部町通学路安全対策プログラム」に新たに盛り込むことで、継続的な取組としていきたい。